令和４年　１０月　２８日

令和４年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立田原西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和４年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

令和4年4月19日(火)

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）

中学校　第２学年　　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

第４学年	国語	21人	算数	21人	理科	21人
第５学年	国語	37人	算数	37人	理科	37人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

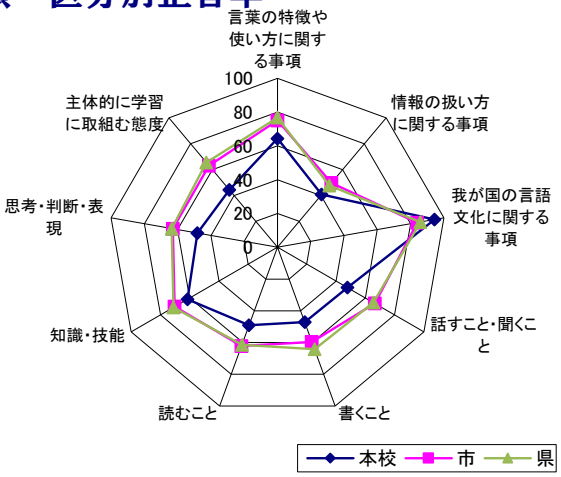
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立田原西小学校 第４学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	64.4	75.1	76.7
	情報の扱い方に関する事項	40.7	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	94.4	84.0	85.9
	話すこと･聞くこと	47.8	66.5	65.5
	書くこと	47.2	59.6	64.2
	読むこと	49.1	62.2	61.5
観点	知識･技能	61.5	70.2	71.1
	思考･判断･表現	48.1	62.9	63.6
	主体的に学習に取組む態度	44.4	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

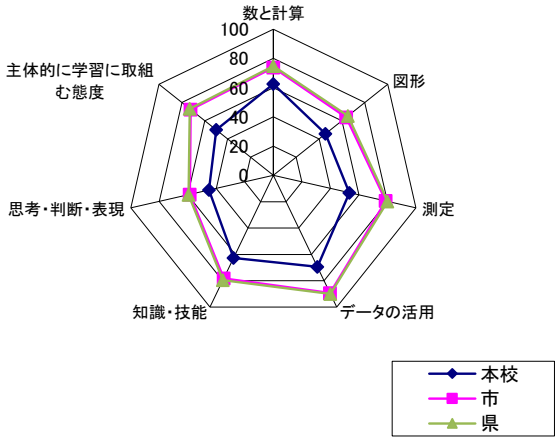
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は県や市を下回っている。 ○「速い」「起きる」など普段からよく使う言葉については，漢字の読み書きがよく身についている。 ●日常生活であまり使わない熟語の読み書きは身についていない。	・漢字の読み書きは，朝の学習や宿題などで繰り返し練習するほかに，日常生活の中で習った漢字を使う取り組みが成果として表れていると考えられる。引き続き取り組んでいく。 ・日常生活であまり使わない熟語については，漢字を使った短文作りなどに取り組み，定着を図る。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は県や市を少し下回っている。 ○国語辞典の使い方については身に付いている。 ●説明文の中から必要な情報を抜き出したり，話し手が伝えたいことの中心を捉えたりする力が身に付いていない。	・引き続き国語辞典を活用する機会を設ける。 ・説明文の学習の際，段落ごとの要点を整理したり，中心となる語を捉えたりする活動を丁寧に行い，読み取る力を身に付ける。また，段落と段落の関係や段落構成を考える活動を十分にとって理解力を高める。 ・新聞やインターネットの情報など，各教科等の中で様々な説明文に触れる機会を設ける。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は県や市を10ポイント以上上回っている。 ○漢字の「へん」や「つくり」は94．4ポイントと市の平均を上回り，よく理解できている。	・引き続き，新出漢字の学習や朝の学習などで「へん」や「つくり」について触れる機会を設け，定着を図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は県や市を下回っている。 ○話合いにおいて，話し手が伝えたいことの中心を捉える問題では88．9ポイントと県の平均とほぼ同じである。 ●話合いにおいて，話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えたり，自分の考えを相手に伝わるように理由を挙げながら話したりする問題は県の平均を大きく下回っている。	・引き続き，話合いの場を積極的に設け，話し方や聞き方を指導する。 ・授業の中で，他の人に分かるように理由を説明したり，他の人の考えに対して自分はどう思うかを話したりする活動を設け，課題に合った答え方を身に付けていく。 ・相手に伝わるように筋道を立てて話ができるように，朝のスピーチや日々の生活の中で指導する。
書くこと	平均正答率は県や市を下回っている。 ●自分の考えや理由を明確にして文章を書く力や，指定された条件に合わせて文章を書く力が身に付いていない。	・学習や行事の振り返りで，時間や行数を制限したり，課題を与えたりしながら自分の思いや考えを書く機会を多くとる。 ・朝の学習の時間に共通の課題を提示し，課題に対する自分の考えや理由を書く作文の時間を設ける。
読むこと	平均正答率は県や市を下回っている。 ○物語文では，登場人物の気持ちについて叙述をもとに捉えることは比較的よくできている。 ●情報と情報の関係について理解し，適切な文章を選び出す設問の正答率が大きく下回っている。	・学年に応じた音読の取り組み方を工夫し，目で文章を追ったり，短時間に集中して読んだりするような力をつけさせる。 ・引き続き，読書に親しむ態度を育てる。読書の幅を広げ，物語だけでなくいろいろな分野の本を読めるようにする。 ・説明文では，段落のまとまりを理解し，その関係性を考える活動を十分に行うようにしていく。

宇都宮市立田原西小学校 第４学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.5	73.8	74.8
	図形	45.6	63.7	65.3
	測定	53.3	78.9	80.1
	データの活用	69.4	89.3	90.0
観点	知識・技能	62.7	78.3	79.5
	思考・判断・表現	45.2	58.6	59.5
	主体的に学習に取組む態度	50.0	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

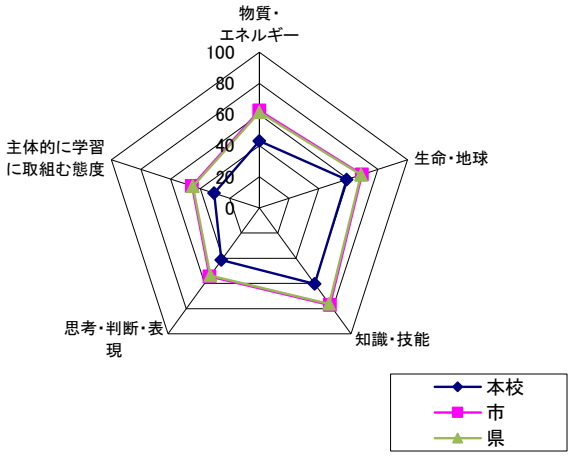
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は，県や市の平均より低い。 ○基本的な計算についての設問では，他の内容と比較して正答率は高く，市の平均とほぼ同じものがある。 ●分子が1の分数が何個で1になるかの理解が，市の平均を大きく下回っており不十分である。 ●文章問題を解くために除法の立式についての設問では，市の平均を大きく下回っており定着が不十分である。乗法の式を立てた解答が多かったのは，倍という言葉から考えたのだと考えられる。 ●□を使って乗法の式に表す設問では，市の平均を大きく下回っており定着が不十分である。「全部で18」という言葉から加法を，「同じ数ずつ」という言葉から除法を選んだ解答が多かったのではないかと考えられる。	・日頃から朝の学習や家庭学習などを活用し，加減乗除の計算問題や文章題に繰り返し取り組んでいるが，確実な定着のためにも，今後も取り組みを強化して継続していく。 ・設問では，1/3が3つ集まると1になることが理解できていなかった。分数の意味の理解が不十分であるといえるので，分数に対して視覚的なイメージをもたせて復習する機会を設ける。 ・文章問題から立式をするにあたり，数字や言葉だけで簡単に式を立てることがないようにする。授業のなかで，なるべく具体物を用いて，問題の場面をイメージする力を養っていく。
図形	平均正答率は，県や市の平均より低い。 ●円と球・三角形の設問では，市の平均を大きく下回っており定着が不十分である。半径と直径について理解ができていないと言える。	・円や球の学習では，半径や直径などの用語の意味を確認し，確実な定着を図る。
測定	平均正答率は，県や市の平均より低い。 ●身近にあるものの重さを推測して，適切な単位を使って表す設問では，市の平均を大きく下回っており定着が不十分である。	・長さや重さの学習では，授業に体験的な学習を取り入れ，日常生活と関連付けて理解が図れるように指導を行っていく。特に，重さの学習の際には，児童自身が実際に具体物を手に持ち，重さを実感しながら測定する活動を取り入れ，重さの感覚を身に付けられるよう指導する。その際，１目盛りの大きさの異なる様々なはかりを用いて重さを図るなど，目盛りの読み方の習熟を図る。
データの活用	平均正答率は，県や市の平均より低い。 ●棒グラフを正しく読み取る設問では，数値を読み取ることはできるが，2つのグラフを比較したり，設問に合わせた必要な数値を読み取って処理することに課題が見られる。	・グラフの値の読み取りでは，１目盛りの大きさが１以外の様々なグラフの読み取りに取り組み，習熟を図っていく。また，記述式の問題では，条件を整理して説明することができるように，日頃の授業の中で条件を付けて書く指導を行い，苦手意識をなくすようにしていく。

宇都宮市立田原西小学校 第４学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	43.0	62.5	61.5
	生命・地球	58.9	69.2	68.6
観点	知識・技能	60.4	77.2	76.3
	思考・判断・表現	41.5	54.4	53.7
	主体的に学習に取組む態度	30.6	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は，市や県の平均を下回った。 ○鉄くぎがどのような磁石になるか指摘できるという設問では，１%県の平均を上回った。違う極が引き付け合い，同じ極がしりぞけ合うという性質を理解していると思われる。 ●光の性質の問題では，「虫眼鏡で光を（ア）と・・・」という（ア）の空所を記述する設問において正答率が16，7%と低く，県の平均を32.1%下回った。 ●電気の通り道の問題では，電気を通すものと通さないものを判別する設問において正答率が33%と，県の平均を38%下回った。 ●磁石の性質の問題では，方位磁針の針として使えるかどうか判断し，その理由を記述する設問において正答率が5%と，県の平均を20%下回った。	・分析した結果，「電気を通すもの通さないもの」「磁石に付くもの付かないもの」の区別ができていないと考えられるので，覚えるべき基本的知識の定着を確実に行うよう，反復学習等の手法を取り入れた授業を展開する。 ・自分の言葉で回答する設問について課題が見られるので，考察や振り返りの時間で自分の考えを整理して表記する活動を多く取り入れるようにする。
生命・地球	平均正答率は，市や県の平均を下回った。 ○身近な自然の観察では，観察カードの内容をもとに共通点や差異点を見出すことについては，十分に身に付いている。 ○こん虫の体のつくりにおいて，こん虫の足がむねからはえていることについてもよく理解できている。 ●植物の育ち方では，ホウセンカの子葉に関する問題の正答率が県平均を20%以上下回っている。 ●太陽と地面のようすでは，日なたと日かげの地面の温度のようすをもとに，日傘の下が涼しく感じる理由を記述する問題では県の平均を10%以上下回っている。	・身近な植物やこん虫の観察の際に，それぞれのつくりや部分の名前を十分に理解できるよう，繰り返し指導していく。 ・太陽と地面の様子について，実験の様子からその事象を自分の言葉で記述したり，説明したりする機会を増やし指導していく。また，日常生活の中の事象と結び付けながら指導にあたる。

宇都宮市立田原西小学校 第４学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「学校の宿題は、自分のためになっている」の質問に対し，全ての回答が肯定的であり，県の平均を上回っている。また，「次の教科の学習は，将来のために大切だと思いますか」の質問に対しても，全ての教科について肯定的回答の割合が多く，「はい」と答えた児童の割合は，全て県の平均を上回っている。学習は将来に大切だという意識は高く，前向きに取り組みたいという気持ちをもつ児童が多いことが分かった。今後も，児童の学習意欲を高めて学習に取り組めるように指導するとともに，生活の中でどのように活用できるかについても触れていきながら，達成感を味わうことのできるよう指導をしていく。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定的回答は市の平均を上回っている。「クラスは発言しやすい雰囲気である」の質問に対して，肯定的回答は8割であり，「友達と話し合うとき，友達の話や意見を最後まで聞くことができる」の肯定的回答が9割，「人と話すことは楽しい」の肯定的回答が10割であることから，友達がしっかり話を聞いてくれるという安心感があることがよい影響をもたらしていると考えられる。今後も学習指導だけでなく居がいのある学級経営にも力を入れていきたい。

○「自分は勉強がよくできる方だと思う」の質問に対し，肯定的回答は7割を超え，市の平均を上回っている。「自分にはよいところがある」，「家の人は，あなたが褒めてもらいたいことを褒めている」の質問に対する肯定的回答も高いことから，児童は自分の努力を認めてもらえることで自己肯定感が高まってきていると考えられる。今後も，保護者の方と連携を図り一人一人の努力を認め，児童の自己肯定感をより一層高めていきたい。

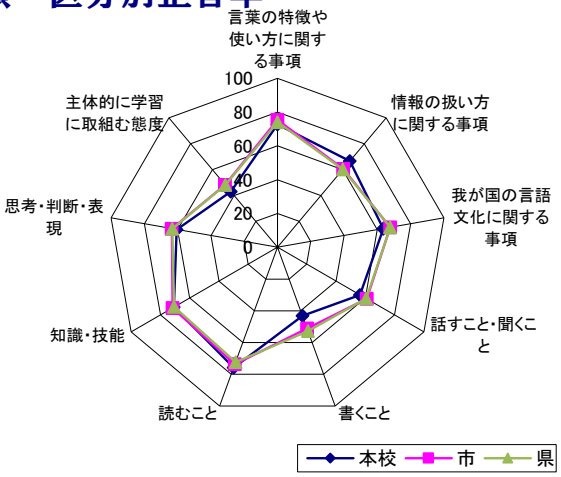
●「ふだん，１日当たりどれくらいの時間，テレビゲームをしますか」の質問に対して，「１時間以上」と回答した割合が，市の平均をやや上回っている。そのうち16.7%は4時間以上ゲームを行っていた。長時間，ゲームに時間を費やす児童がいると考えられる。保健体育の学習等で長時間のゲーム・テレビが体に及ぼす影響について指導するとともに，帰宅後の時間の使い方について，家庭への啓発を行っていきたい。

●「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」の質問と，「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」の質問に対して肯定的回答の割合は，市の平均を下回っている。地域や社会で起きている問題や出来事に関心をもたせることが必要である。

宇都宮市立田原西小学校 第５学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.7	75.4	74.1
	情報の扱い方に関する事項	66.7	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	63.6	67.7	67.8
	話すこと･聞くこと	56.4	61.0	60.7
	書くこと	43.2	51.2	52.8
	読むこと	75.8	73.7	72.4
観点	知識･技能	70.8	71.7	70.6
	思考･判断･表現	60.6	63.5	63.2
	主体的に学習に取組む態度	43.0	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

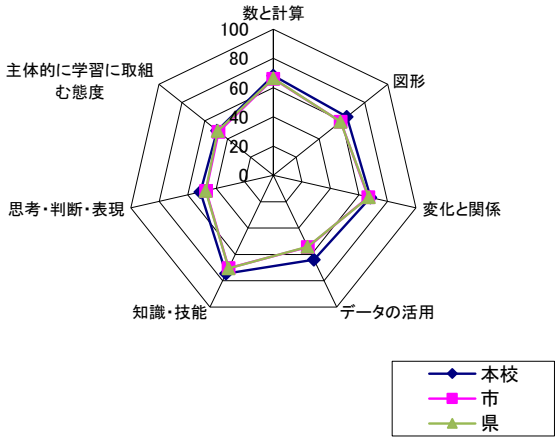
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は県や市とほぼ同等である。 ○漢字の読みや語句の意味などの基礎的事項はよく身に付いている。 ●修飾語が文中で果たす役割についての理解が課題である。	・漢字は，朝の学習や宿題などで繰り返し練習する他に，いろいろな熟語に触れたり，文章の中で漢字を使ったりする取り組みを行った成果が表れてきていると考えられる。引き続き取り組んでいく。 ・修飾語の使い方は授業で取り扱う時数が少ないので，朝の学習や自主学習で使う機会を増やし，修飾語の意味と文中での役割について理解させる。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は県や市を上回っている。 ○漢字辞典の使い方についてはよく身に付いている。 ○情報と情報の関係について理解し，中心となる語や文を見付けて要約する問題も県の正答率を上回っている。	・引き続き漢字辞典や国語辞典を活用する機会を設ける。 ・説明文の学習の際，構成図にまとめる活動を多く取り入れ，段落のまとまりや相互関係が理解できるようにする。 ・新聞やインターネットの情報など，各教科の中で様々な説明文に触れる機会を設ける。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は県や市の平均をやや下回っている。 ●ことわざの意味や使い方が身に付いていない。	・朝の学習や自主学習等でことわざに触れる機会を増やすとともに，教師側が意識的に会話の中にことわざを入れるようにし，さらなる定着を図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は県や市を下回っている。 ○話し合いにおいて，話の中心に気を付けたり，話し方の工夫に注意して聞いたりすることは身に付いている。 ●話し合いにおける司会の役割として，意見の相違点に着目し，文章にまとめる問題は県と同等であるが，校内正答率は50%以下である。	・引き続き，話合いの場を多く設定する。少人数で行うときは，誰でも司会進行ができるようになるよう，毎回司会者を変えて取り組ませる。 ・聞き手に伝わるように，朝のスピーチや日々の生活の中で筋道を立てた話の仕方を指導していく。
書くこと	平均正答率は県や市を下回っている。 ○80%の児童は文章を書こうとしている。 ●指定された行数や段落構成などの条件を守って，制限時間内に書く力が身に付いていない。	・学習や行事の振り返りで，時間や行数を制限したり，課題を与えたりしながら自分の思いや考えを書く機会を多く設ける。 ・朝の学習や授業中などに，文の構成を意識して書けるよう，工夫した問題で繰り返し学習して定着を図る。
読むこと	平均正答率は県や市をやや上回っている。 ○物語文では，叙述をもとに登場人物の気持ちを捉えることができている。 ●物語文で内容を読み取って，登場人物の性格について具体的に想像する設問の正答率が下回っている。	・物語文では，場面ごとのまとまりを理解させ，人物の心情や情景を追うことで，物語全体の構成を捉えられるようにする。 ・説明文の内容を理解し，中心となる語や文を見つけ，要約する機会を設ける。

宇都宮市立田原西小学校 第５学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.3	66.1	66.4
	図形	64.3	58.9	58.8
	変化と関係	68.2	66.6	67.0
	データの活用	64.0	54.4	54.2
観点	知識・技能	74.6	70.4	70.6
	思考・判断・表現	51.2	47.2	47.5
	主体的に学習に取組む態度	49.2	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

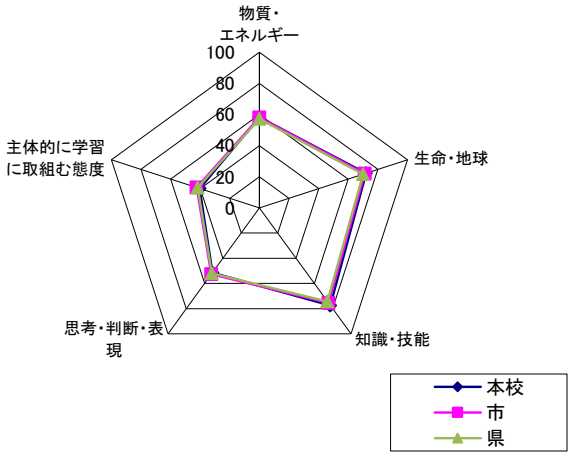
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は，市や県の平均とほぼ同じである。 ○億・兆・がい数の表し方や小数や分数の基本的な計算については，県の平均を上回っており，おおむね理解が図られたと言える。 ●乗法の性質を理解した上で小数の計算をしたり，分数の加法と整数の加法を結び付けて計算したりする設問では，県の平均を下回っており，理解が不十分であると言える。 ●図や2つの数量の関係から，割合を求める設問では，県の平均を下回っており，図や表から問題の意味を理解し，立式することに課題が見られる。	・朝の学習や家庭学習などを活用し，日頃から加減乗除の計算問題や文章題に繰り返し取り組んでいるが，確実な定着のためにも，今後も取り組みを強化して継続していく。 ・小数や分数の計算では，計算ができるだけでなく，小数や分数のしくみについても理解が図れるように指導する。 ・問題文と図や表を結び付けられるように，何を問われているのか正しく読み取り，図や表が表していることを整理して考えられるように指導を行う。
図形	平均正答率は，市や県の平均より高い。 ○角の大きさを求める設問では，正答率が8割以上となっており，おおむね定着が見られる。 ●およその面積を選んだり，単位の関係を説明したりする設問では，正答率が約3割と低く，理解が不十分であると言える。	・面積を求める問題では，単に面積の公式を覚えるだけでなく，広さを比較するなどの活動を取り入れ，量についての感覚を豊かにするように指導を行う。 ・図形の作図においては，復習を継続的に行い，1つの方法だけでなく，複数の方法を使って作図する力が身に付くように指導を行う。
変化と関係	平均正答率は，市や県の平均とほぼ同じである。 ○伴って変わる2つの数量についての設問では，県の平均を上回っている。	・伴って変わる2つの数量から，もう一方の値を求める問題では，様々な問題場面を取り上げ，数の変化を表にまとめていくことを通して，2つの数の変わり方に気付けるように指導する。
データの活用	平均正答率は，市や県の平均より高い。 ○折れ線グラフから変わり方や必要なことを読み取る設問では，正答率が7割以上となっており，県の平均を大きく上回っている。 ●二次元表の見方や比べ方を言葉や式を使って説明することは十分ではない。	・折れ線グラフの読み取りでは，算数以外の教科でもグラフや表などの資料から情報を読み取る活動を取り入れ，グラフや表を活用する力を身に付けさせる。 ・二次元表の学習では，数値の読み取りだけでなく，2つの観点から起こり得る場合を正確に理解できるように指導を行っていく。また，考えを言葉や式を使って説明する機会を多く設ける。

宇都宮市立田原西小学校 第５学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	58.2	58.1	57.2
	生命・地球	72.0	71.1	70.0
観点	知識・技能	77.5	75.5	74.4
	思考・判断・表現	51.5	52.7	51.9
	主体的に学習に取組む態度	40.4	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○平均正答率は市や県をやや上回っている。 ○電気のはたらきについての問題は2問とも県の平均を約7%上回った。 ●水のすがたに関しては折れ線グラフをもとに読み取ったことを関係づけて記述する問題の正答率が18%とかなり低く，県の平均を下回った。 ●湯気に関する問題では正答率が10%以下で県平均を下回った。	・量的な変化に伴って質的な変化も関係していることを，観察しながら発見できるように，記録の視点を明確にして，目的に応じて物質の変化の様子をとらえることができるように指導する。 ・湯気に関しては現象と捉えるのではなく，物質の変化による様子（見え方）の違いということを理解することができるようにするために，スケッチに注釈を入れるなどの指導が必要である。また，生活経験と結び付けた体験的理解を深めるために，映像資料と実物との共通性を意識させる授業の展開をしていく。
生命・地球	○平均正答率は市や県を上回っている。 ○1年間の植物の成長の問題は県平均と同等か同等以上でサクラに関する問題については，県平均を大きく上回った。 ○満月の1日の動きに関しての問題は正答率が80%を超え，県平均を上回った。 ●記録温度計の記録から天気の変化を推測する問題は約15ポイントで県平均を大きく下回った。	・気温の変化については放射冷却による明け方の温度低下を体験的に理解している児童が少なかった。そのため，前日の晴れの天気と比べて，最高気温が半分程度しかないことから，曇りと判断していた。授業時間外でも体験したことを記録し，思考力を働かせることができるワークシートの工夫や記録法の指導について充実を図る。

宇都宮市立田原西小学校 第５学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「家で，自分で計画を立てて勉強をしている。」「家で勉強するときに，だいたい同じ時こくに取り組むようにしている。」という質問では，市や県の平均を上回った。全校で家庭学習強化週間に取り組んできた成果が表れてきていると考えられる。また，「家で，学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた宿題をしている。」という質問では，はいと答えた市の平均が33．2%だったのに対し，本校は38．2%と上回っている。低学年から自主学習に取り組み，自ら進んで学習に取り組もうとする態度が育ってきていると考えられる。
○「むずかしい問題にであうと，よりやる気が出る。」「学習に対して，自分から進んで取り組んでいる。」という質問について，ともに市や県の平均を上回ったことから，積極的に学習に取り組もうという児童が多いことが分かった。
○「１日にどれくらい読書をしますか。」の質問に対して，「１時間以上」と回答した割合が35．3%，市の平均が17．8%と市の平均を大きく上回った。また，「１か月に何冊くらい本を読むか。」という質問に対して，「5さつ以上」と回答した割合が61．8%，市の平均が45．5%と市の平均を大きく上回っている。これからもいろいろな種類の本に触れる機会を設け，読書の幅が広がるような工夫をしていきたい。
●「学校の授業以外で，１日当たりどれくらい勉強しているか。」という質問において，本校児童が「平日１時間以上」と答えた割合は58．8%，市の平均が53．5%と市の平均を上回った。しかし，「休日１時間以上」に関しては，本校の平均が55．8%，市の平均が57%と，休日は市の平均を下回っている。家庭学習が習慣化され，しっかり取り組める児童がいる反面，休日は取り組むのが難しい児童もいることが分かった。最低でも学年×10分を実施できるよう，学習をする意義や大切さを理解させ，中身のある家庭学習にしていきたい。
●「ふだん，１日当たりどれくらいの時間，テレビゲームをしますか」の質問に対して，「2時間以上」と回答した割合が41．2%，市の平均は40．6%で市の平均をやや上回っている。「2時間以上」と回答した児童のうち14．7%は4時間以上ゲームを行っていた。長時間，ゲームに時間を費やす児童が多いと考えられる。保健体育の学習等で長時間のゲーム・テレビが体に及ぼす影響について指導するとともに，帰宅後の時間の使い方について，家庭への啓発を行っていきたい。
○「将来の夢や目標を持っている」の質問の肯定的回答が9割を超え，市の平均を大きく上回っている。また，「誰に対しても思いやりの心をもって接している」「自分のよさを人のために生かしたいと思う」の質問に対する肯定的回答も8割以上と高い。児童は夢や目標をもち，周囲のためになる行動をしたいと思っていることが分かった。児童の「人のためになりたい」という意欲を生かせるよう，一人一人の活躍の場を設け，児童の自己有用感を高めていきたい。

宇都宮市立田原西小学校（第４・５学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・全教育活動を通した「書くこと」の実践 ・家庭学習の推奨	・国語の「書くこと」の領域を中心に，授業や日常生活の中で感想や考え等を記述する場を意図的に設け，習慣化を図っている。 ・年度始めに家庭学習メニューを配付し，自主学習ノートの秀作を掲示したり，家庭学習強化週間を年4回実施したりして，家庭への啓発を図っている。	・国語の「書くこと」の領域の平均正答率が市の平均を大きく下回っている。無回答児童が4年は38．9%，5年は27．3%と市の平均よりも多い。 ・家庭学習の時間について，「30分より少ない」「全くしない」と回答した割合が，市の平均より4年生で5．4ポイント，5年生で1．6ポイント下回っており，家庭学習の時間が市の平均より長い。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語，算数，理科のすべてにおいて記述式の問題の正答率が県の平均を下回っており，自分の考えを文章で表現することが苦手な児童が多く見られる。	・全教科において感想だけでなく，分かったことや自分の考え等を記述する場を意図的に設けて，書くことへの抵抗感を軽減する。	・朝の学習の内容を工夫し，基礎基本の定着に加え，語彙，記述問題などに取り組む。また，新聞のニュースに触れるなど，家庭での取り組みに差が見られる部分を補っていく。 ・授業の振り返りの場を設け，必要な学習用語や文字数などの条件を整えて書くよう指導を行う。